

# 農村ニュース

## 『79cc耕うん機発売』

国際農業社  
2025年2月11日発刊

### 工 進

# 79cc 耕うん機発売

## 農業初心者に使いやすい

工進 小原英一社長、京都府長岡京市神足上八ノ坪12は、エンジン式の「耕うん機EST-500」を開発し、2月21日より販売を開始する。農業の初心者向けに開発されたもので、簡単操作を実現しながら、79ccエンジン搭載でワンランク



安定した作業を実現

上の性能を発揮する。大きなポイントが初心者でも使いやすい操作性とバランスの良さ。最も重いエンジンが高い位置にならないように全体のバランスが配慮され、使用時の安定性が高い。初心者が足元の悪い畑で耕うん機を操作すると、ハ

ンドルを取られ、直進することも難しいが、楽に安定して作業ができる。抵抗棒は3つの穴位置で、ローターの違いや沈み込みに合わせ、安定した姿勢を保つ設定となっている。また、スロットルレバーとエンジンスイッチの配置を片方に集約し、簡単操作を実現。スロット



耕うん機EST-500

ルレバーを握れば動き、離せば止まる。初心者でも疲れず安全に使用できる。エンジン始動も本体に貼り付けられている操作手順ラベルに従うだけ。79ccエンジン搭載で約60坪を1時間で耕せる性能を実現。作業面積が大きくてもストレスなく使用できる。

ハンドル部分を折り畳むことができ、乗用車にも搭載可能。乗り慣れた自家用車で自宅から離れた畑にも耕うん機を持って行くことができ、気軽に作業が始められる。タイヤが標準装備され、車から畑の移動もスムーズに移動できる。実勢小売価格(税込)は5万9800円。

主な仕様

- ▽寸法 全長1130×全幅500×全高960mm(組立時)
- ▽重量 24.2kg(耕うん幅275/495mm)
- ▽エンジン 切替可(エンジン工進KV80(空冷4サイクルガソリンエンジン) 車軸回転数1105rpm)
- ▽実勢小売価格(税込) 5万9800円

# 農機新聞

## 『「耕うん機」新発売』

新農林社

2025年2月11日発刊

工進

# 「耕うん機」新発売

## 79cc 1.3馬力エンジンを搭載



小原社長

(株)工進 東京都府長岡京市神足上八ノ坪12・800

反動もあり、減収した。軸受事業の売上高は、得意先からの受注増加により、3億5100万円(同5.3%増)であった。通期の業績予想については、国内外とも依然として厳しい市場環境や製造原価高の影響などを慎重に精査し、売上高69億円、営業利益3億円、経常利益3億5千万円、当期純利益5億2千万円に修正した。

75(954)611 1・小原英一社長は、2025年度の新商品として、同社初のエンジン式耕うん機「EST-500」を発表した。2月21日から販売開始する。初心者向けに開発されたもので、自社製の79cc 1.3馬力4サイクルガソリンエンジンを搭載。1時間あたり約60坪を耕せる、ワンランク上の性能を発揮する。重量バランスを考慮した設計なので安定して作業ができ、アクセルレバーを握れば動き、離せば止まるシンプルでわかりやすい操作性で、初心者でも疲れずに安全に使える。操作に不慣れでエンジンのかけ方を忘れても、操作手順ラベルが本体に貼付されていて安心。



耕うん機「EST-500」

軽くてコンパクト、ハンドル部分折りたたむための

で、乗用車にも積載可能。車から畑への移動に便利な車輪も標準装備している。

分割式ローターを採用しており、作業幅が275/495mmに切り替え可能。オプションの各種アタッチメント(ニュースターローター、ニューイエロー培土器、グリーン培土器)を取り付ければ、耕うん以外にも除草・畝立・培土作業に対応できる。



初心者でも簡単に操作できる

- 〈仕様〉▽型式 ES T-500▽機体寸法 全長1130×全幅500×全高960mm
- ▽(組立時)▽機体重量 24.2kg▽エンジン 空冷4サイクルガソリンエンジン(工進KV80)▽始動方式 リコイルスターター▽総排気量 79.5cc▽連続定格出力 1.0馬力(1.3PS)▽3300rpm▽燃料タンク容量 0.67リットル▽耕うん幅 275/495mm(切り替え可)▽ローター径 260mm
- ▽車軸回転数 1105rpm
- ▽主クラッチ方式 遠心クラッチ▽変速段数 前進1段▽作業効率 約60坪/1時間
- 希望小売価格 10,900円(税別)▽オープン

# 農経しんぽう 『耕うん機を新発売』

農経新報社  
2025年2月10日発刊

## 工進 耕うん機を新発売 EST-500 パワフルで簡単操作

機工進（小原英一社長）  
・京都府長岡京市神足上八ノ坪12）は21日、耕うん機「EST-500」を新発売する。農業初心者向けに開発され、簡単な操作性とパワフルさを兼ね備えた耕うん機で、気軽に農作業できることをコンセプトに、乗用車にも搭載できるコンパクトさを実現した。

同機の特徴は、79立方センチエンジンを搭載し、1時間当たり約60坪の耕うん性能がありながら、使用時の安定性を図るため、最も重いエンジンが高い位置にならないよう全体のバランスを考慮して設計されている。その足元の悪い畑でも安定した作業がしやすく、疲労感の軽減も期待できる。ハンドル部分が折りたためるので、乗用車にも搭載可能。タイヤが標準装備され車から畑への移動も簡単。また、本格的な耕うん作業に対応すべくアタッチメントオプションも用意されている。



耕うん機「EST-500」



同社敷地内で行われた実演会で、EST-500が披露された

シオンが豊富で、耕うん機以外に除草、畝立て、培土作業に対応可能。同社は1948年に京都で誕生した企業で、草刈機、噴霧機、ポンプなどの開発・製造・販売を行っている。2017年からバッテリー式の「スマートコーシン」シリーズを全長1300×全幅500

展開しているが、今回はガソリンを使用する製品の発表となった。農業機械のトレンドはバッテリー式に傾倒しているが、同社では、今後は市場を鑑みながら、どちらの開発も行っていくという。

全長960mm▽重量112kg▽耕うん幅275/495mm（切替え可）▽燃料タンク容量10.67リットル▽変速段数1前進1段

▽エンジン出力1.0kw（1.3PS）▽燃料タンク容量10.67リットル▽変速段数1前進1段